
ゼロから始まる下剋上

mack

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼロから始まる下剋上

【Nコード】

N9068R

【作者名】

mack

【あらすじ】

ゼロの使い魔に転生した人が居ました。だけでもその世界の主人公はルイズで、サイトで。彼は主人公にはなれませんでした。それでも諦めずに物語りに大きな影響を与えてやろうと決心した男の話。

基本的に作者の思い付きです。過度な期待はしないで下さい。作者はガンダムネタが好きです。時々入れますが不快に成られたらすみません

プロローグ

—— 昔の記憶がある

【前】の記憶。今じゃ無い。前世の記憶

それに気がついたのは、3才になった頃だった。

私はこの世界のことを知っていた。二度目の祖国、アルビオンという国。世界最大の国ガリアがありトリスティンという国がある。ゲルマニアと言う帝国があつて、ロマリアと言う宗教国家がある。

私はこの世界のことを知っていた。

「ゼロの使い魔」

無能と言われたヒロインが平凡な主人公を呼び出し、その隠された力を解放していき世界を救ったり、イチヤイチヤする話だ。

私はこの事に気がついたとき、とても喜んだ。狂喜したと言ってもいい。

昔から夢見ていた。物語の主人公になることを。大いなる敵を仲間と力を合わせて打ち破ることを。

うら若き乙女のように、それに恋焦がれていた。

私は、アルビオンのしがない子爵家の次期当主として生まれた。領地はそこそこ、父も母も魔法の才が突出している訳でも領民から絶賛される大政治家と言うわけでもなかった。

しかし。それでも物語の世界に来ることが出来たことが、うれしかった。

ジエレマイア・ソールズベリー・オブ・ホールミアと言う名前を頂きこの世に生を受けたことが最上の喜びだった。

父は元ゲルマニア貴族で婿養子として母と結婚した。

新興国として勢いのあるゲルマニアとつながりを持っていた老人の欲のための政略結婚であつたが父も母も仲睦まじい夫婦だった。

特に変わりは無く。強い力（権力）と力（才能）持っているわけでもなかったが、それでも努力と続ければこの世界を変え、私が主人公の新たな物語を作れると思っていた。

けれども、その思いは儚く散ってしまった。10才の時に。

見たのだ。【主人公】たちを。

正確に言うとルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエールと言う少女を、まだ3才に満たない年であるのに、周囲をひきつける魅力がある。圧力がある。

どこぞの某宇宙世紀アニメでいうとプレッシャーを感じたのだ。誰もかわった様子は見せないが、私は確信してしまった。

コレが、主人公なのかと。

所詮私は脇役で、物語の端にちょこんとアルビオンの貴族Aとでも称される存在だったのだ。

私は物語りを進めることは出来ない。

私がどんなに努力しようと彼らは、易々とその上を行くだろう。

勇気を振り絞っても、何年もかけて策を練っても。
はち切れんばかりに声を上げて、自らを鼓舞し、その手に持つ剣を
力の限り振り落としても。

彼らはそれを上回る勇気で、牙え渡る知略で。
伝説の力で、その剣を打ち破るだろう。

それに私は気がつき。そのことに私は絶望し。
私は「ゼロの使い魔」の世界を終らせようともしていた。

——そう、彼に会うまでは。
孤高の人。栄光ある人。名誉ある人。
負けいく運命の人。

世の民に祝福をもたらす人。

彼も、確かにかのルイズ嬢のように圧力があつた。プレッシャーが
あつた。

しかし彼のプレッシャーは私を威圧し境界を作らず、逆に私を覆つ
てしまい決して離さなかつた。

私は本能的に気がついた。彼には私が必要なのだと。負けいく人の
運命を変えるには私が必要なのだと。

もしかしたら、私の精神を守るための自己暗示かもしれない。しか
し、それでも構わなかつた。私がこの世界に生まれた理由がコレな
のだ。

彼が王になれば多くの人が幸せになる。私はそれを助けなければならない。

私は【主人公】では無い。それははっきりしている。

主人公はルイズ嬢でありその使い魔であるサイト君だ。

だがしかし、私は唯の脇役では終わらない。至上の王を助ける者として。この物語に大きく影響してやろう。

そうだ！居たではないか。

私が憧れた者達。シャアやハマーン。ガトー。カ石。ベジータ。ルパンに対する銭形警部。

私のいた世界に主人公を凌駕するような脇役がたくさん居たではないか。

喰ってやろう。主人公を。後の世が彼らを伝説の者として、あがめてもそれをに立ちはだかった大きな壁と言われるように。

至上の王を最も助けた者と言われるように。

さあ。まずは未来の王に認められねば。

待っていてください。王子よ。必ずあなたが権力を握る頃までにあなたの力に成れる様にします。

ウェールズ王子よ。

プロローグ（後書き）

誰でも感想かけようになっているはずですが
どんだんだめなところ言ってお下さい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9068r/>

ゼロから始まる下剋上

2011年10月7日19時36分発行